

北極圏旅行記 2017-2018 冬 (21)

～1/2 出発の朝～

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

大晦日は少し夜ふかしをしたので、元日は寝坊だった。また、荷物整理や雑誌の原稿書きなど、やっておかなければいけないことも多く、一日沈殿していた。「沈殿する」というのは、山言葉で「テン場や小屋で停滞する」という意味だ。



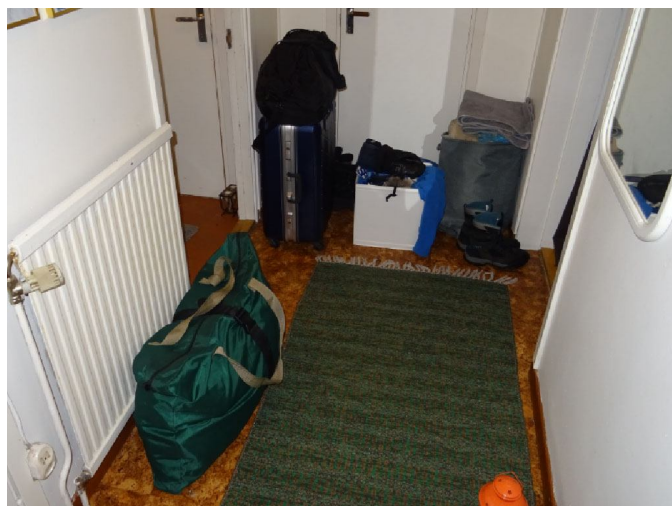
翌2日の朝は、早起きして出発となった。あまった食材のうち、保存のきかないものを食べてしまうことにした。写真は袋入りの野菜。500円ぐらいする高級品。日本にも似たようなものがあるが、スウェーデンのものの方が中身が良かった。



キュウリも高級品。「3本100円」なんてあり得ないことで、「1本70.SEK (約1000円!）」だった。このあたりでは、夏でも野菜の栽培はできないので、輸入品が多く、高価なのだ。



廊下にコルクの掲示ボードがあったので、「勝手にオーロラ・ギャラリー」にしてしまった。キャビンのオーナーはとても喜んでくれた。



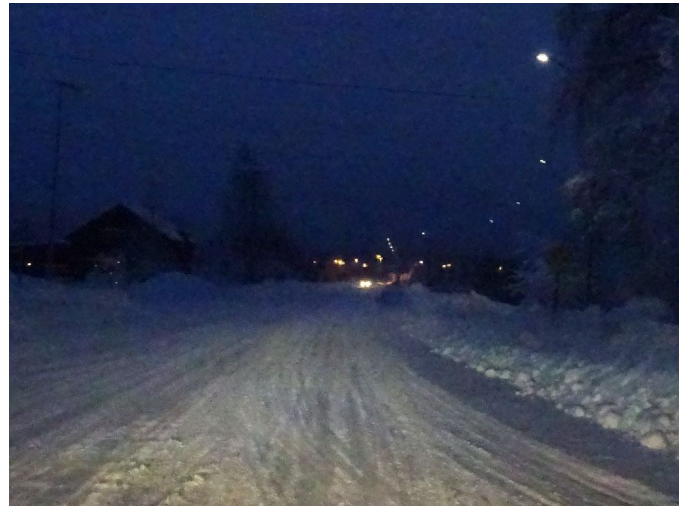
玄関脇は荷物で一杯になった。左の緑色のバッグは、ボストンバッグのような、テントの袋。これが防寒具の運搬に役だった。



なつかしい「ユール・ストック」その左側にある黒いボックスは、WiFiのルーターだ。受信も送信も無線という、ポケットWiFiに近いシステムだ。



最後にダイニングの電気を消した。ユール・ストックだけはそのまま消さないでおいた。何か、我が家を去るようで、少し悲しい気持ちだった。



スウェーデン側の国道は、道もやや狭く、除雪もしっかりできていなかった。制限速度は90だが、70ぐらいで様子を見ながら南下した。



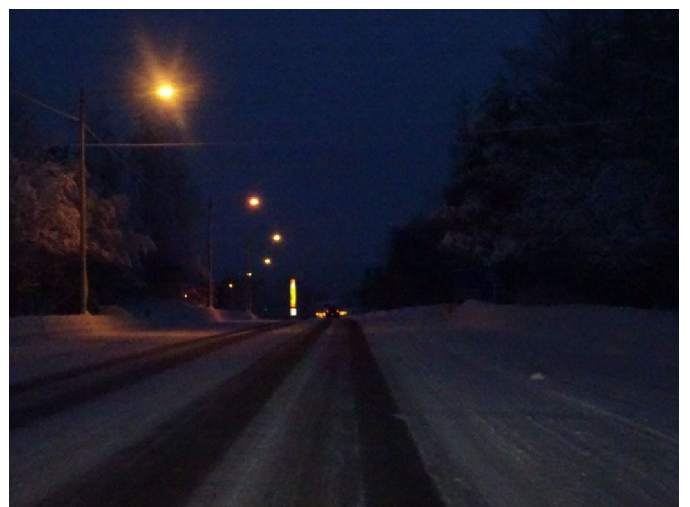
凍った車に、また荷物を押しこんだ。ヘルシンキの空港までちょうど1000km。前半は雪道なので、慎重に運転していこう。



できるだけ早くフィンランド側に渡ろうと思い、一番近い国境でトーネ川を渡った。写真はフィンランド側の国境事務所だが、真っ暗で誰もいなかった。



いよいよ6泊お世話になったキャビンの扉を閉める。キーは暗証番号付きのキーボックスに入れるだけなので、チェックアウトの手続きは不要だった。



フィンランド側に入ると、道も広く除雪もしっかりしていて、「わだち」も見えやすい。ガソリンスタンドやコンビニも多く、非常に助かった。